

IAEA/FMU国際会議「放射線、健康、人々：
福島災害後の復興過程での多角的局面」

放射線災害での適切な科学伝達への 取り組み

—福島原発事故後個人的経験に基づく提言—

湘南鎌倉総合病院附属臨床研究センター

佐々木 康人

2014年7月24—27日 於：福島

現代科学の確立

「科学者 scientists」の造語 1843年 W. Whewell

ピアニスト (pianist) と音楽家 (musician) の対比が

示すように

「……イスト」は特定の狭い専門分野に没頭する人

知識製産方式の変化

モード 1.

好奇心主導型研究
専門家の閉鎖的社会

専門分野内
仲間内評価

モード 2.

使命誘導型研究開発
専門家と市民との相互作用

専門分野横断的
透明性
関係者の関与

知識・情報伝達には信頼が基本的に重要

専門性 + 透明性 = 信頼

説明者・伝達者の存在 \Rightarrow 理解



関与した様々な試み

- 報道関係者への提案（放射線と健康影響の市民への説明の仕方について）
- 報道関係者向け講演（ICRP勧告による放射線防護）
- 一般市民向け公開講演会（日本学術会議、日本アイソトープ協会）
- 日本学術会議HPによる市民への説明
- 柏市、流山市の保育園での小グループ会合や個人面談

日本学術会議HPを通じての 市民への説明

4コマ パワーポイントによる週報

放射線と健康影響の基礎知識

議論百出

- * 適切・分かり易い、短いのが良い
- * 難しい、説明不足

委員が会合して活動を見直す

- 科学者・研究者の中に秀でた伝達能力を示した人々がいる
- 一般には、科学者/研究者は一般市民との話し合いが不得手な人が多い
- 社会は科学伝達の専門家を必要としている

一つの提案

- 大学にコミュニケーションのプロを育成する課程を設置する
- 体系的な教育・養成課程には以下を含む
科学史(倫理的側面を含む)
コミュニケーションの原理、技術
リスク管理と災害予防
危機対応

社会はコミュニケーションの専門家を
平時、有事(災害、危機)いずれでも
十分に活用することが求められる

